

日高変成帯の下部 - 中部地殻岩石における2タイプの塑性変形集中帯

Two types of ultramylonite in lower to middle crustal rocks exposed in the Hidaka metamorphic belt, Hokkaido, Japan

豊島 剛志[1], 新里 忠史[2], 小原 友弘[2], 小松 正幸[3]

Tsuyoshi Toyoshima[1], Tadafumi Niizato[2], Tomohiro Obara[3], Masayuki Komatsu[4]

[1] 新潟大学・大学院自然科学, [2] 新潟大・大学院・自然, [3] 愛媛大・理・生物地球圏科学

[1] Grad. Sch. Sci. & Tech., Niigata Univ., [2] Grad.Sch.Sci.& Tech.,Niigata Univ., [3] Graduate Sch.Sci.& Tech.Niigata Univ., [4] Dept. Earth Sci., Fac. Sci., Ehime Univ.

日高変成帯の下部～中部地殻条件塑性変形集中帯（ウルトラマイロナイトを含む）の組織は一様でなく、強い層状構造を示す場合（層状タイプ）とランダムに近いファブリックをもつ場合（混合タイプ）とがある。前者は数百m以下の幅を持つが、後者は十数m以下の幅しかなく、側方への厚さの変化が激しい。両タイプでは、鉱物の定向配列、微細組織に違いがある。また混合タイプで含水鉱物が現れる、または増える傾向がある。両タイプとも鉱物種により細粒化の程度や再結晶鉱物粒径が異なっている。これらは、下部～中部地殻での塑性流動が均質一様ではなく、流体の関与などによって歪集中の仕方に違いが生じた可能性を示唆している。

日高変成帯の下部～中部地殻条件塑性変形集中帯（ウルトラマイロナイトを含む）の組織は一様でなく、強い層状構造を示す場合（層状タイプ）とランダムに近いファブリックをもつ場合（混合タイプ）とがある。前者は数百m以下の幅を持つが、後者は十数m以下の幅しかなく、側方への厚さの変化が激しい。両タイプでは、鉱物の定向配列、微細組織に違いがある。また混合タイプで含水鉱物が現れる、または増える傾向がある。両タイプとも鉱物種により細粒化の程度や再結晶鉱物粒径が異なっている。これらは、下部～中部地殻での塑性流動が均質一様ではなく、流体の関与などによって歪集中の仕方に違いが生じた可能性を示唆している。